



かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/> (HP 随時更新中!)

「主体性」を育むために

校長 窪田 剛久

あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症の対応に苦慮し、感染拡大防止のため、様々なアイデアを出しながら慎重に学校運営を行った1年間でした。今年もまだコロナ禍が続く中で、子ども達の健康と安全を守るため、対策を怠ることなく、かつ子ども達の学校生活を充実させるために、更なる工夫を考える1年になりそうです。保護者、地域の皆様におかれましても、どうか健やかなる1年となりますよう、お祈り申し上げます。

今年の干支は丑です。丑年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われています。牛は、大変な農作業をしっかりと手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「耐える」、「これから発展する前触れ・芽が出る」というような年になると言われています。結果を求める時期ではなく、結果につながる道をコツコツと積み上げていく時期とされているようです。本校でもコロナ禍に耐えつつ、しかし発展に向けて歩みを止めない、そのような1年になるよう、職員一同力を合わせ、知恵を結集して取り組んでいきます。



タブレットを使用し、自分たちのフォームを振り返る3年生。

さて、先日本校では、2年生・3年生・5年生から一クラスずつ代表となって、校内研究授業が行われました。それまでの間に十分準備をし、学習を積み重ねてきた子ども達は、実に生き生きとそれぞれの学習に取り組んでいました。中でも目を引いたのが、子ども達の学習活動に向かう姿勢です。

2年生は生活科で身近な素材を組み合わせた遊びを考えました。ふんだんに用意された材料から自分で必要な素材を見つけ出し、理想の形に近づけていく、そういった活動に没頭して取り組みました。3年生は体育で、準備や振り返り、片付けまで教師の指示を待つことなく、自分たちで進んで行動していました。5年生は算数で、課題に対し一人一人が真剣に向き合い、課題解決に向けて積極的に話し合っていました。子ども達は、どうしてこのように、自発的に学習活動に取り組むことができたのでしょうか。

学校ではそれぞれの教員が、研究授業を行うことで指導力の向上を図っています。入念に教材研究に取り組み、課題や活動の設定の仕方、授業の流し方、身に付けさせたい力など様々な要素を全体で検討しながら指導案を紡ぎだし、授業当日を迎えます。授業後も話し合い、良かったところ、課題などを共通理解し、全員の指導改善に繋げていくのです。そうした検討、振り返りの中でよく話題にされるのが「必要感」です。子どもたちが「必要感」をもって課題や活動に取り組んでいたか、そうでなければどのような支援や工夫が必要なのか、真剣に話し合っています。こうした日々の積み重ねが日常の全ての活動に生かされ、学校生活が成り立っているのです。私達はそうした生活の中で、子ども達が自ら必要感を見出し、学習や活動に自発的に取り組む力を育んでいます。

「自発的」とは、あらかじめ決まっていることを、人に指示される前に行うことです。では次の段階は何でしょうか。それは「自主的」です。「自主的」とは、主体が自分自身にあり、自ら判断して活動を工夫していくことです。学校では、最終的に子どもの「主体性」を育むことも目指しています。「主体性」が身に付くことで、子ども達は豊かな発想をもち、「自主的」に生活を切り開いていく力を発揮できると考えています。

私達はこれからも、そのように「主体性」が芽吹いた子ども達の姿を思い浮かべながら、日々コツコツと子どもの育成に努めていきます。ご家庭や地域でも、そのような子ども達の姿をお見かけしましたら、たくさん褒めて、意欲を高めてあげてください。